

いつも寒い日が続き、花便りの遅れにやきもきした春でした。会員の皆様方はいかがお過ごしだったでしょうか。

2月11日の第44回通常総会には、お寒いなかを多数の方のご出席をいただき有難うございました。議事につきましては別ページに報告いたしましたのでご一覧ください。

さて、当会の主要事業として本年度の計画にもあります『第34回東部ニューギニア方面・第4回西部ニューギニア方面への現地慰霊巡拝』に関して、現状のご報告とご連絡をさせていただきます。

戦友はもとよりご遺族様や関係者の高齢化により現地への慰霊巡拝の組織は全国的に弱体化しつつあるのが現状です。このなかで私ども長野県

いつまでも寒い日が続き、花便りの遅れにやきもきした春でした。会員の皆様方はいかがお過ごしだったでしょうか。

2月11日の第44回通常総会には、お寒いなかを多数の方のご出席をいただき有難うございました。議事につきましては別ページに報告いたしましたのでご一覧ください。

ニュー・ギニア会は最近まで例年の慰霊巡拝を実施、33回を数えるにいたりました。本年も、前号の会報で新年から旅行のご希望を募り実現への努力を重ねております。

ところで、パプアニューギニアは今年5年に1度の総選挙が行われる年にあたり、各地で立候補による選挙キャンペーンが続けられました。1議席当たりの立候補者はなんと平均で30倍を超えているそうです。発表されている選挙日程によると、投票開始は6月23日、終了が7月6日で、投票期間が14日間、その後の集計期間が21日間、したがって結果の発表は7月末ころと言われています。

同国では、他の新興国同様選挙は一種のお祭りの様相が

ニュー・ギニア会は最近まで例年の慰霊巡拝を実施、33回を数えるにいたりました。本年も、前号の会報で新年から旅行のご希望を募り実現への努力を重ねております。

ところで、パプアニューギニアは今年5年に1度の総選挙が行われる年にあたり、各地で立候補による選挙キャンペーンが続けられました。1議席当たりの立候補者はなんと平均で30倍を超えているそうです。発表されている選挙日程によると、投票開始は6月23日、終了が7月6日で、投票期間が14日間、その後の集計期間が21日間、したがって結果の発表は7月末ころと言われています。

が、何分、現地の情勢を直接つかむのは難しく、限られた範囲でしかわかりません。今後、もし旅程に影響するような情報があつたときは、



慰霊碑を掃除していた少年たち 洋展台(ミッションヒル)にて



先の大戦から67年の歳月が過ぎ去りました。会員皆様方の高齢化が進むなかで、絶えず無く毎年の慰霊祭を続けてまいりました。本年度も次のように慰霊大祭を執り行いますのでご案内いたします。毎年、7月末の暑い日にな

「鳴呼戦友の碑」の前に焼香台を設けてあります。この碑も建立から年月が経過、耐震性など安全について改修整備の計画が検討されており、現在の姿も近い将来変わってしまいます。どうぞ、大勢の皆様にご来場いただき、写真など撮つておいてください。

長野県ニュー・ギニア会会長  
横田 久

## 慰霊巡拝計画について

## 会員のみなさまへ



平成24年6月20日発行  
長野市戸隠祖山1175  
発行人 横田 久  
印刷 神林印刷

あるとともに、結果によつては支持者間による不測の事件の発生も過去にありました。同時に、政治体制の変化に伴い国内の政策も変化し、諸々について修正・変更があることを考えておく必要があります。

我々にとつて重要なツアーニュースとして、国際線はさておき国内線の路線時間については従来通りかどうか今のところ予測ができません。他の慰霊団体や旅行社、外務省などの情報を収集しています

旅行ご希望者に直接ご連絡いたすように考えております。なんとか、慰霊巡拝が実現できるよう今後とも努力を続けて参りますので、なにとぞ一層のご支援のほどお願い申し上げます。

※会館が控え室になります。昼食は各自でご用意ください。お茶は用意いたします。  
△受付 松本市美須々6-1  
午前10時30分頃から  
△場所 長野県護国神社本殿  
美須々会館にて  
△日時 平成24年7月29日(日)  
正午より

## 第44回 戦没者慰霊大祭の ニュー・ギニア方面 ご案内

## 第44回 戦没者慰霊大祭の ニュー・ギニア方面 ご案内

りますが、灼熱のニュー・ギニアに思いをはせ、英靈のご冥福をお祈りいたしました。

アに思いをはせ、英靈のご冥福をお祈りいたしました。

## 重見天日のいまに生きる

本田トキ

多くの生命が奪われ、悲しみと苦労を強いられた戦争の終結から、67年が過ぎようとしています。

青木村の本田トキさんも、2年余りの結婚生活で夫を戦地に送り、そして戦死という厳しい現実に遭遇、ご苦労を重ねながら一人息子を育て上げました。97歳のいまでも家業の「本田酒店」の店頭に立ち、また、ご趣味にも力を注ぐ…。今日はそんなトキさんをお訪ねしてお話を伺いました。

(安川・大久保)

素晴らしく晴れ渡った5月19日、上田から松本に通じる国道143号線にある道の駅「あおき」を過ぎ、1キロほど脇道のゆるい坂道を北に走つたところに、『本田酒店』がありました。

寛政11年(1799)創業の酒蔵『本泉』の名で知られていた酒造業も、国策のため昭和17年に蔵を閉めました。そんなお宅は、壁には墨絵、屋根には飾り瓦の鍾馗が睨みを効かす土蔵など、往時の隆盛を偲ばせる屋敷構えでした。そんな土蔵の横の門をくぐり、年輪を感じさせる木々や美しい花々の中庭を通り抜けると母屋の玄関です。履物入れの棚の上に並べたトキさんの木彫りの作品が迎えてくれます。



亡きご主人の胸像

### 生い立ちと結婚

トキさんは、大正4年8月14日生まれ、今年97歳になります。兄弟は姉と妹、それに弟さんがふたりでしたが、上の弟さんは大学生のとき徵集

なりましてね」と言われるトキさんですが、まだ店番もされるとか、顔の色つやも良くなこやかにお話を聞いていただきました。



「優しくて親切でね、控え目な人でしたが朗らかでしたよ…」先生だつただけにとても博学で、新妻のトキさんに色々なことを教えてくれたそうです。

結婚して次の年に誕生した昌彦さんが10カ月たらずの昭

され戦死、下の弟さんは中学生の時病氣で亡くなりました。今は兄弟で残っているのはトキさん独りになってしまったそうです。

生家は小諸で雑貨などの店を営んでいて、トキさんは女学校卒業後は、お針やお花の習いごとで過ごし、昭和14年3月に24歳で本田家に嫁いできました。ご主人の本田昌平さんはそのとき29歳、青木小学校の教員をしていました。トキさんは、70年あまり昔のことを持かしむように話してくれました。

トキさんは、70年あまり昔のことを持かしむように話してくれました。

ウエワクの野戦病院で昭和19年7月8日戦病死とのことでしたが、戦死の連絡が入ったのは、なんと2年後の昭和21年の8月のこと、白木の箱に入つて還つてきたのは、小さな石ころひとつだけでした。

「もともと体があんまり丈夫でなかつた人でしたから、食べるのも無くて衰弱したんだと思います…」どうしてあんな遠い所まで行つて戦争したんでしょう。未だ解りません。まるで死に行つたようなものです…。

短かつた新婚生活でしたが、トキさんが昌平さんから託された願いは、家族の健康と昌彦さんをしつかり育てることです。

和16年7月にご主人は応召、可愛い盛りの一人息子を置いて戦地に赴くのはどんなに辛かつたでしょうか。その頃の出征は、万歳や幟や旗での賑やかな見送りはなく、人に知られないようにひつそりと入隊して行つたそうです。

### 戦後の生活

さて、ご主人を戦争で亡くし、また、昭和17年には米不足の国策から家業の酒造業も閉じざるを得なかつたトキさんは、お姑さんと番頭さんの3人で酒類とタバコの小売業を営みます。その頃は、当時の誰もが経験したように大変な苦労の連続でした。いまでも辛くて思い出すことは、胃潰瘍を患い吐血までしたこと、幸い親戚にお医者さんがいたのでなんとか直すことができました。

「因果なもので、お客様というものは、食事時でもなんでも時間を選ばず見えますので、この歳まで昼寝など一度もしたことありません。お釣りも間違うこともなく明るく元気に仕事をさせて頂いています」と朗らかに話されました。

さて、こんなトキさんにニューギニアへの慰霊巡拝についてお話を伺いました。

…1回行けば成就できた…」1回行けば成就できたと思う人もいるでしょうが、私の場合は、現地から帰つくるとまたニューギニアの風景が頭に浮かび、もう一度という気持ちに駆られています。

昭和53年の第2回慰靈巡拝以来、合わせて6回現地を訪問しました。その間、子供や孫、親戚の者と一緒に行つたこともたいへん有意義で思い出深く心に残つております。

ときは、コイキンマリックの観音像の建立に立合うことができたのも大きな幸せと思い出のひとつです。そのときは、セメントやシャベルなどの道具も一緒に持ち込んだので、役員の方々は税関の検査でたいへんご苦労されていました。初めての頃は、鹿児島からの出国で、香港、マニラを経由する長旅でした。現地の道路も整備されていないところが多く、砂埃をかぶり、乗り物の自動車も年代物のひどいもの、また、運転手も未熟なのが乱暴なのか、ほとほと閉口したものです。でも、そんなことのすべてが、それほど不

大久保さんから『ご主人の亡くなつたとされる野戦病院はこの辺りだ』と、示された場所で特別に法要を営んでいたとき、「やつとお迎えに参りました：」と持参したお酒やお米をお供えできることは、今でも鮮明に思い出すことができます。

自由にも苦痛にも感じなかつたのは、今より若かつただけでなく、慰靈ということで順応させる何かがあつたように思われますね。

何回目のときか忘れました  
が、持参した子供用のシャツ  
を現地の人에게たところ、  
そのお返しに手提げの袋を貰  
いました。そのとき、なんと  
優しい人間味あふれる国柄、  
人柄なんだろうと感激し、今  
でもその袋は大事にとつてあ  
ります。

南国特有の生暖かい風に身  
を任せながら、いつ行つても  
思うことがあります。トキさ  
んはつぶやきました。

『なんで、ニューギニアな  
のか？ 何かこの地に得で  
もあつたのか？

何でこの遠いニューギニア  
なのか？ なんでこんな所  
で戦争したのか？

なんで…、どうして…、ど  
うして…』

そんなやりどころのない用  
いを繰り返しながら、いつも  
ニューギニアを後にしていま  
した。いまでもその気持ちは  
少しも変わっていません。

6回も慰靈巡拝でニューギ  
ニアに渡ったトキさんの亡き  
ご主人への思いそのもので  
しょう。



きご主人の胸像（三越本店で  
製作して貰つたのこと）と  
向き合ふ日々だそうです。  
仏壇には、現実を祈り、願  
い、胸像には、短かつた二人  
の生活の思い出と、夢を語り、  
そして浸る…。そのように感  
じられました。

木彫りの教室に出掛けるときには、髪を整え、きちんとお化粧をしてのお出かけとか、「なかなか大変ですね」と申し上げたところ、凜として一言「身嗜みです」。トキさんのお元気な源はこんなところにあるのではないか、と感服してお暇いたしました。

どうぞお元気でお過ごしくださいるようお祈り申し上げております。

重見天日

(訓読) かさねててんじ  
つをみる」 苦しく暗い環

あとがき

トキさんは日課として、毎日仏壇に手を合わせています  
また、床の間に据えられた亡

第44回通常総会報告



第44回通常総会が2月11日、松本市浅間温泉・ホテル井筒で開催されました。

総会は、安川幹事長の総合司会で午後2時に始まり、黙とうを捧げた後横田会長が挨拶に立ち「会員の皆さまのご推举により、会長に就任して一力年が経ちました。昨年はさまざまの大災害が続き、自然災害の恐ろしさを思い知らされた一年でした。今年こそ平穀な年であつてほしいと念じております。

ところで、昨年はニューギニアへの現地慰靈巡拝事業が実施できず、会として大変残念であり責任を痛感しております。慰靈巡拝については、厳しい状況にありますが、できるだけこの事業を継続してまいりたいと存じます。本年度も会の運営については、会員相互に支えあいながら、この会を盛り立てていただくようお願いいたします。」と述べました。

その後議事に入り、英霊の顕彰事業の推進、昨年度事業・決算報告に統いて、平成24年度事業・予算(案)などを審議し、いずれも原案どおり可決承認されました。

主な内容	総額	本年度予算
慰靈大祭費	508,000円	3,754,495円
慰靈巡回費	680,000円	
総会費	380,000円	
役員会費	295,000円	
広報費	189,000円	
事務費	70,000円	
嗚呼戦友の碑整備策定費	0円	
予備費	100,000円	
など	500,000円	

(総会出席者263名  
出席率66%)

## 稻垣前会長の油絵展

A black and white photograph of a man with glasses and a light-colored jacket standing next to a painting of a house on stilts reflected in water.

開催初日には、当会の会員をはじめ地域の人や昔の友人など大勢の方々がお祝いに詰めあがれ賑やかな夜になりました。どうぞ、これからも描きつづけていただき、次の展覧会をお待ちしています。

稻垣さんは「ただ好きで描いていただけです」と謙遜されましたが、趣味というだけではもつたいない腕前のものばかり、「楽しみで描いてきました：」とは羨ましいかぎりです。

5月19日から1週間、画廊喫茶「ゆえ」で、稻垣前会長の油絵の個展が開かれ大勢の愛好家が訪れました。

稻垣さんが60余年描き続けてきた油絵のなかから、信州の山々や慰靈巡拝で訪れた二ユーロギニアの風景など約20点を選んで展示しました。

## 桑原さんの名簿について

## 事務局だより

## 平成24年度役員の 増強について

桑原さんは松本護国神社での慰靈祭に出席の予定とのことです。第4中隊（計153名）の中で長野県出身者の戦没者51名についてご存じのこともあるかと思いますので、お心当たりの方は当日お問い合わせください。

い合わせ状況をお聞きしたところ、多数の電話があつたとのことです。おそらく39大隊全体の関係者も多かつたのではないかと考えますが、桑原さんは『4中隊』だけのことしか解らないそうです。

前号で紹介の、栄村の桑原さんが保管していた「独立自動車第39大隊4中隊」の戦死者名簿について、その後の問



三五七四·名媛派

変になりそうで  
よしょう。水も  
のですから。  
したが、稻垣画  
伯の描いた  
ニユーギニア  
風景もカツツ  
に無料で使わ  
せて頂いてい  
ます。

◆昭和49年(1974)建立の「嗚呼戦友の碑」は、安全対策として改修と整備の計画中近い将来、現在の姿は見られなくなります。思い出に残るよう慰靈祭にはぜひお出かけ頂いてご覧ください。

◆当会の本田副会長の御母堂  
本田トキ様に来し方のお話を  
お聞きし、取材者は元気の源  
を感じたそうです。

◆ごいたとしている日本の政情も困ったものですが、海に向こうのニューギニアでも総選挙のせいでもめ事があるようです。慰靈巡拝への影響があり得ることなので、1面に記載しました。外務省の情報報を尊重しますが、タイムラグもあり判断に悩みます。

編集後記

